



小栗上野介情報75

ホームページ[Http : //tozenji.cside.com/](http://tozenji.cside.com/) Eメール : tozenji@clock.ocn.ne.jp

2019(令和元)年10月
発行:東善寺 住職 村上泰賢
群馬県高崎市倉渕町権田169
〒370-3401
Tel・fax:027-378-2230
〒振替0120-1-406206東善寺

横須賀製鉄所 (造船所) 三つの特徴

慶応元年（1865）に建設着工し明治初年にはほとんどの工場が稼働していた横須賀製鉄所（造船所）の特徴を三つあげると

- 1, **何でも造る総合工場** あらゆる工業製品を生産一造船所は「船も」造る所
- 2, **蒸気機関が原動力** 慶応年間から蒸気機関でモノづくり
- 3, **教育機関で人づくり** モノづくりの原点はヒトづくり。すぐれた職工・技師を育てた

日本産業革命の地 **横須賀製鉄所**
明治以前に「徳川近代」が始まっていた！

1,なんでも造る総合工場

◆横須賀製鉄所では蒸気機関、大炮、銃、砲弾や弾丸のほか、鍋・釜・スプーンフォークからドアノブまで、船に必要なあらゆる工業製品を造っていた。

製帆所 蒸気船が主流になりつつあったが、蒸気船でもふだんは石炭を節約して風で航海していた（機帆船）から、製帆所で帆布を織り切って、縫って、帆を製作した。

製綱所 帆を開き閉じるロープを製綱所で造っていた。上の写真右の長い建物が製綱所（ロープ工場）で慶応年間から稼働した日本最初のロープ工場。

木工所 黒船といっても船体は木造だった。構内の木工所で材木をアク抜きし乾かして加工し船体、船室、床、天井、壁、階段すべて木で作っていた。

もちろん**鉄工所**が構内の主流だった。蒸気機関を造るだけでなく、構造・機能・効率が研究改良され、船体工学と合わせて船舶機関工学が当時最高の工学の位置を占めていた。

2, 蒸気機関が原動力 慶応年間から蒸気機関でモノづくり

◆横須賀製鉄所の構内のどの工場も完成すればすぐにそれぞれの蒸気機関で部品の生産を行い、慶応年間にはたくさんの工場が生産体制に入っている。

従来の日本の工業の原動力は、人力ー牛馬ー水力まで。横須賀に大きな川がないから造船所ははじめから蒸気機関を原動力として設計された「蒸気機関を原動力とする日本最初の総合工場」。司馬遼太郎が「かつてここは日本の近代工学のいっさいの源泉であった」（『三浦半島記』）と書くゆえんである。

学校で「産業革命は蒸気機関の使用から」と教えながら、横須賀製鉄所の歴史を無視し、教科書で「日本近代化の例」として富岡製糸場から教えているのではつじつまが合わない。

3, 教育機関で人づくり モノづくりの原点は人づくり

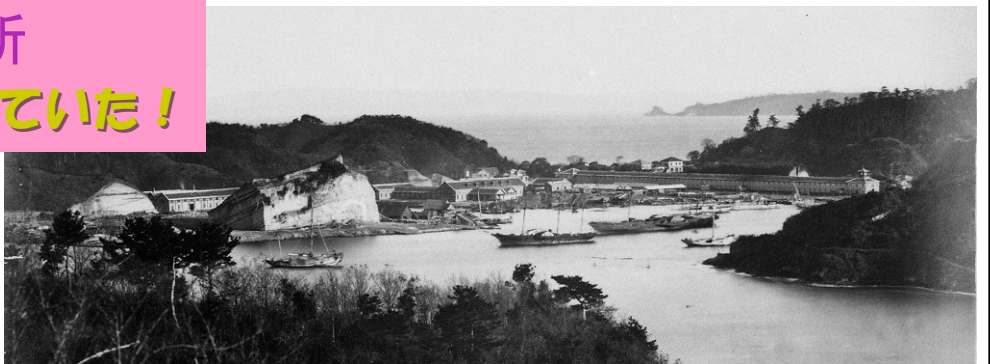
◆製鉄所内に職工・技師を育てる学校「**覺舎**」が設置され、明治初年には更に高度な造船工学を学ぶ「**海軍機関学校**」が設けられた。

覺舎 慶応二年開校で授業料は無料。卒業すれば家族を養えるほどの給料を造船所からもらえるので人気が高まり、全国から優秀な若者が殺到。定員60名。仏語、数学、物理、船舶工学を学び大学理工学部または工業高専卒業程度の知識と技術を身に着けた優秀な職工や技術者となった。例えば辰巳一少年は石川県金沢から歩いて横須賀の覺舎に入学、努力の末フランスに留学するまでの力をつけ後に造船大監となった。

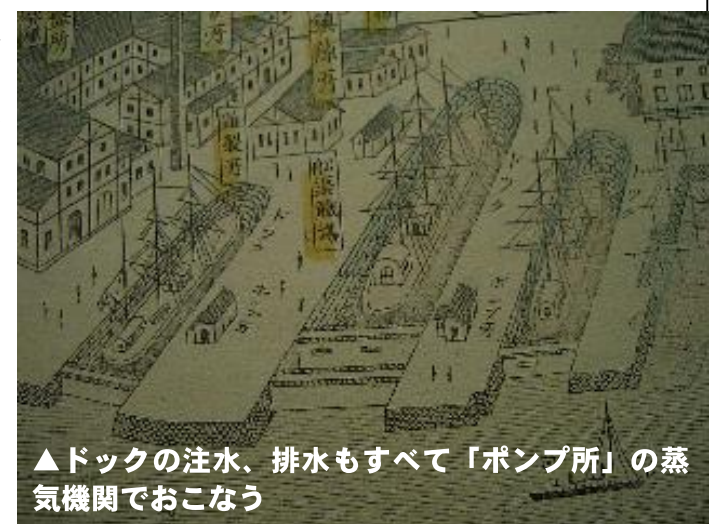
すべての建設作業、製造作業がフランス式にメートル法で行われ、日本人がそれに慣れていったことは、画期的なことと言えよう。

機関学校 明治初年に開校。授業料は無料で、全国から優秀な若者が集まり、最高の船舶工学を学び船の設計までできる技術将校を育成。東京大学工学部学生はここで現場実習をしないと卒業単位が認められなかった。

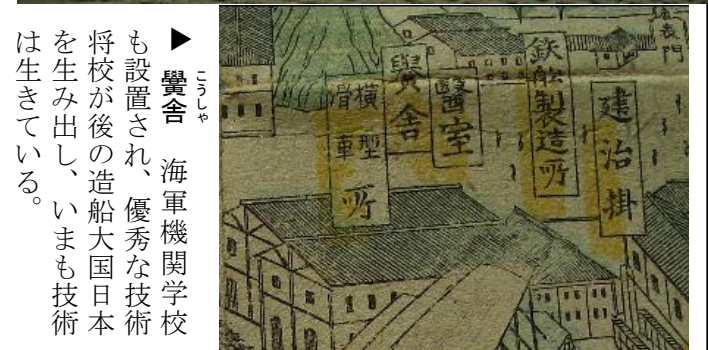
芥川龍之介が英語を教え、中島知久平（群馬県尾島村）は機関学校を卒業して海軍技術将校となり、のちに中島飛行機（いまスバル自動車・群馬県太田市、マキタ・沼津市など）を興した。



▲製帆所で帆を織り、切って縫って製作していた



▲ドックの注水、排水もすべて「ポンプ所」の蒸気機関でおこなう



▶ **覺舎** 海軍機関学校も設置され、優秀な技術将校が後の造船大国日本を生み出し、いまも技術は生きている。

◆小栗まつり 5月26日(日)

◆倉渚小学校で 10:00～

式典 / 挨拶 市川平治会長 / 祝辞 兵藤公保副市長など

演奏 くらぶち中学校音楽部

講演 作家原田伊織「小栗上野介と『徳川近代』」

「日本の近代化は明治以前に『徳川近代』として始まっていた。小栗上野介の業績確認をするとそのことがわかる…」など講演要旨は『たつなみ』44号に掲載。

剣詩舞 会津一刀流剣詩舞澤田光陽

◆東善寺で 午後～

剣詩舞 会津一刀流剣詩舞澤田光陽一門 真剣を用いた迫力のある剣詩舞に参拝者は圧倒された。

墓参献香 導師住職 参拝者

演奏 群馬マンドリン楽団 おなじみの楽団が演奏の「トミーボカ」が令和元年9月13日NHK BS「新日本風土記ービール特集ー」のBGMで流れました。

屋市 川マス塩焼き・小栗公最中・関連書籍・陶芸・梅類・藍染・カレー・大判焼き・パン・富岡の衣類作品・手作り工芸品・手打ち蕎麦・古本雑貨・ナメコ汁

予報 来年は5月24日(日)に実施。講演は作家柳原三佳氏ー遣米使節従者で開成学園創立者「佐野鼎」について語ります

◆遣米使節従者加藤素毛のマンガシリーズ

『幕末に世界一周 やってみた』

ーがインターネットで流れています。素毛は下呂市金山町出身で、俳句を趣味とし好奇心向上心が強く、すすんで渡米を志願し賄い方の下役で渡米し、貴重な記録を残しています。作者秋桜さんは、東善寺取材と参拝をしました。



◆NHKBS『英雄たちの選択』

ーめざせ！徳川近代国家ー



9月25日20:00～ / 再放送10月2日(水)08:00～

小栗上野介を取り上げ、横須賀造船所建設の技術指導をどの国に依頼するかを選択などを東洋大学岩下哲典教授らゲストが語り合いました。

表ページ「横須賀製鉄所三つの特徴」は結局フランス人技師ヴェルニーらが日本の将来を考え、誠意を持って指導した結果としての三つの特徴と言えますから、フランスを選択したことが成功であったと言えます。

◆敬弔:作家佐藤雅美氏 8月27日歿(78歳) 時代物を経済面から捉えた直木賞作家。『覚悟の人』(岩波書店)で小栗上野介の生涯を描きました。平成7年1995年7月1～2日に小栗上野介研究会が初めて行った小栗上野介シンポジウムに、作家中村彰彦氏と一般参加してくださり、スタッフ一同大いに元気づけられました。改めて御礼とお悔やみを申し上げます。



◇幕末の歴史・小栗上野介ファンの方へ

倉渚町の小栗上野介顕彰会ではさまざまな顕彰活動を行っています。倉渚地域の人口減で顕彰会員も減っております。東善寺の「たつなみ会」会員には顕彰会機関誌『たつなみ』を発行のつど顕彰会から購入してお送りし、誌代が顕彰会の活動資金に役立っています。また東善寺発行の「小栗上野介情報」や「東善寺だより」などで、小栗上野介・幕末関連の最新情報をお送りします。

会員になってくださいー東善寺「たつなみ会」

□たつなみ会会費 年1800円

◆小栗上野介の演劇『小栗忠順』



吉祥寺を基点とする劇団め組の演劇『小栗忠順』公演が社会福祉法人横浜いのちの電話の主催で、9月26日(木)横浜関内ホールでありました。遣米使節から帰国後日本の近代化のため懸命に努力し最後まで諦めない小栗上野介の姿を、たくさんの観客が興味深く見入っていました。稽古を積んで役になりきって演じている役者さんの様子がうかがえ、熱のこもった演技をもっと多くの小栗ファンに高崎で観てもらいたい、と感じさせる公演でした。

◆小栗上野介のレリーフも出展

高崎の観音さまを制作したことで知られる彫刻家森村西三(伊勢崎市出身)の作品展

「没後70年 森村西三とその時代」

9月21日～11月10日(日)
群馬県立近代美術館(群馬の森)

東善寺から群馬会館竣工を祝って飾られた小栗上野介のレリーフ(複製)を出展。その他めったに見られない貴重な工芸作品が集められています。



◆ドイツからスペインの若手学者グリロ氏 9月11日

取材と参拝 近代の産業革命がどのように伝わったかを

調べていて「日本は小栗上野介の業績を調べるとわかる」として、韓国光州「東アジア文化センター」経由でカップルで9月11日調査に来たもの。前々日は台風のため成田空港にカンヅメ状態！空港の床で一泊したとのこと。



◆「小栗上野介グッズ」販売 発送もします

・オリジナル手拭800円

トートバッグ2950円→

グリロ氏と参拝した女優ヴィヴィアンさんお気に入りのポシェット2300円

